

科目名	言語 I B-3										
科目名(英)											
単位数	4単位			時間数	60時間			担当者			
実施年度	2022年度			実施時期	後期			担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ビジネス科1年										
授業概要	N1レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えて更に幅広い場面で使われる日本語が理解し、運用できるようになる										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
	○					日常のより幅広い場面で必要なN1レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる					
	○					フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる					
		○				学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる					
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1・2	前期の復習 / 文法形式の整理 C・D					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	3・4	文法形式の整理 E / 文法形式の整理 F					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	5・6	文法形式の整理 G / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	7・8	第2部1課文の組み立て1/ 2課文の組み立て2					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	9・10	第2部3課文の組み立て3/ まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	11・12	第3部1課時制 / 2課条件を表す文					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	13・14	3課視点を動かさない手段1 / 4課視点を動かさない手段2					授業内評価テスト準備				
	15・16	授業内評価テスト① / 第3部5課視点を動かさない手段3					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	17・18	6課視点を動かさない手段4 / 7課指示語表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	19・20	8課「は・が」の使い分け / 9課接続表現					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	21・22	10課省略・繰り返し・言い換え / 11課文体の一貫性					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	23・24	12課話の流れを考える / まとめテスト					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	25・26	第1回模擬試験 / 解説					新出語彙等は必ず家で復習をすること				
	27・28	第2回模擬試験 / 解説					授業内評価テスト準備				
	29・30	授業内評価テスト② / 履修内容のまとめ									
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト					◎	◎				60%
	小テスト					◎	◎				20%
	受講状況								◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。										

科目名	言語 I B-2				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年				
授業概要	N2レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えてより幅広い場面で使われる日本語を理解し、運用できるようになる				
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
		○			
目標					
日常のより幅広い場面で必要なN2レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる					
フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる					
学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる					
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N2』(スリーエーネットワーク)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	前期復習			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	2	前期復習			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	3	第1部 25課「強くそう感じる・思いが強いられる」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	4	第1部 26課「願う・感動する」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	5	文法形式の整理 ①			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	6	文法形式の整理 ②			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	7	文法形式の整理 ③			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	8	模擬試験問題 ①			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	9	第2部 1課「文の組み立て-1 決まった形」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	10	第2部 2課「文の組み立て-2 名詞を説明する形式」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	11	第2部 3課「文の組み立て-3 [～ない]がつく文法形式」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	12	模擬試験問題 ②			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	13	第3部 1課「始めと終わりが正しく対応した文」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	14	第3部 2課「時制」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	15	第3部 3課「条件を表す文」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	16	第3部 4課「視点を動かさない手段-1 動詞の使い方、自動詞・他動詞の使い分け」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	17	第3部 5課「視点を動かさない手段-2 「～てくる・～ていく」の使い分け」			試験範囲をきちんと把握し家で復習すること
	18	授業内評価テスト①			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	19	第3部 6課「視点を動かさない手段-3 受身・使役・使役受身の使い分け」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	20	第3部 7課「視点を動かさない手段-4 「～てあげる・～てもらう・～てくれる」の使い分け」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	21	模擬試験問題 ③			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	22	第3部 8課「指示表現「こ・そ・あ」の使い分け」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	23	第3部 9課「は・が」の使い分け」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	24	第3部 10課「接続表現」			新出語彙等は必ず家で復習をすること
	25	第3部 11課「省略・繰り返し・言い換え」			新出語彙等は必ず家で復習をすること

	26	第3部 12課「文体の一貫性」				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	27	巻末模擬試験問題①				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	28	巻末模擬試験問題②				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	29	後期総復習・定期試験対策				試験範囲をきちんと把握し家で復習すること	
	30	授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語 I B-1				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年				
授業概要	日本語能力試験N3レベルの文法を教科書に沿って、学習する。また、学んだ知識を適した場面で運用できるよう、作文、発話練習を行い、日本語能力試験N3レベルの文法を習得する。				
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				目標
	○				日常のより幅広い場面で必要なN3レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる
		○			フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる
			○		学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N3』(スリーエーネットワーク)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	第1部 E「くわけ」のいろいろな使い方			予習・復習、次の小テストの準備
	2	第1部 まとめ問題(A～E)・C～E復習			予習・復習、次の小テストの準備
	3	第1部 F「くばかり」のいろいろな使い方			予習・復習、次の小テストの準備
	4	第1部 G「くする・なる」の整理			予習・復習、次の小テストの準備
	5	第1部 H「くたら・ば・と・なら」の特別な使い方			予習・復習、次の小テストの準備
	6	第1部 I「後に決まった表現が来る副詞」			予習・復習、次の小テストの準備
	7	第1部 J「動詞や名詞の意味を広げる文法形式」A			予習・復習、次の小テストの準備
	8	第1部 J「動詞や名詞の意味を広げる文法形式」B			予習・復習、次の小テストの準備
	9	第1部 まとめ問題(A～J)			予習・復習、次の小テストの準備
	10	模擬試験 第1回			予習・復習、次の小テストの準備
	11	模擬試験 第2回			予習・復習、次の小テストの準備
	12	第2部 1課 文の組み立て-1「引用」			予習・復習、次の小テストの準備
	13	第2部 2課 文の組み立て-2「名詞の説明」			予習・復習、次の小テストの準備
	14	第2部 3課 文の組み立て-3「～という・～といった」			予習・復習、次の小テストの準備
	15	第2部 4課 文の組み立て-4「決まった形」			予習・復習、次の小テストの準備
	16	第2部 まとめ問題(1課～4課)			予習・復習、授業内評価テストの準備
	17	第2部 1～4課復習復習・授業内評価テスト①			予習・復習、次の小テストの準備
	18	第3部 1課「文の始めと終わりの対応」			予習・復習、次の小テストの準備
	19	第3部 2課「時制・～ている」・まとめ問題(1課・2課)			予習・復習、次の小テストの準備
	20	第3部 3課「話者が見る位置を動かさない手段-1 他動詞・自動詞」			予習・復習、次の小テストの準備
	21	第3部 4課「話者が見る位置を動かさない手段-2 ～てくる・～ていく」・まとめ問題(3課・4課)			予習・復習、次の小テストの準備
	22	第3部 5課「話者が見る位置を動かさない手段-3 受身・使役・使役受身」			予習・復習、次の小テストの準備
	23	第3部 6課「話者が見る位置を動かさない手段-4 ～てあげる・～てもらう～てくれる」			予習・復習、次の小テストの準備
	24	第3部 まとめ問題(5課・6課)・復習			予習・復習、次の小テストの準備
	25	第3部 7課「こ・そ・あ」			予習・復習、次の小テストの準備

	26	第3部 8課「は・が」・まとめ問題(7課・8課)	予習・復習、次回の小テストの準備				
	27	第3部 9課「接続表現」	予習・復習、次回の小テストの準備				
	28	第3部 10課「文章の雰囲気」の統一」・まとめ問題(9課・10課)	予習・復習、次回の小テストの準備				
	29	第3部 1課～10課 復習	授業内評価テストの準備				
	30	後期総復習・授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語基礎 I B-3									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者		
実施年度	2022年度			実施時期	後期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年									
授業概要	日本語能力試験N1レベルの語彙をマスターするために、専門のテキストに沿って学習し、知識を積み上げていく。また、学んだ語彙を使用した発話練習も行う。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○					日本語能力試験N1レベルの語彙を習得する				
		○				習得した語彙を適切な場面で運用できるようになる				
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター語彙 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	第2部2章1課「副詞・形容詞」					次回の予習・小テストの準備			
	2	第2部2章2課「動詞・名詞」					次回の予習・小テストの準備			
	3	第2部3章1課「漢語」					次回の予習・小テストの準備			
	4	第2部3章2課「和語」					次回の予習・小テストの準備			
	5	第2部4章1課「程度、時間、頻度の副詞」					次回の予習・小テストの準備			
	6	第2部4章2課「後ろに決まった表現が来る副詞」					次回の予習・小テストの準備			
	7	第2部4章3課「まとめて覚えたい副詞・その他の副詞」・復習					次回の予習・授業内評価テストの準備			
	8	第2部5章1課「ものの様子・人の様子①」・授業内評価テスト①					次回の予習・小テストの準備			
	9	第2部5章2課「人の様子②」					次回の予習・小テストの準備			
	10	第2部6章1課「体の言葉を使った慣用表現①」					次回の予習・小テストの準備			
	11	第2部6章2課「体の言葉を使った慣用表現②・その他の慣用表現」					次回の予習・小テストの準備			
	12	第2部7章1課「複合動詞①」					次回の予習・小テストの準備			
	13	第2部7章2課「複合動詞②」					次回の予習・小テストの準備			
	14	第2部7章3課「接尾辞・接頭辞」					次回の予習・授業内評価テストの準備			
	15	復習・授業内評価テスト②								
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	授業内評価テスト	◎	◎				60%			
	小テスト	◎	◎				20%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。									

科目名	言語基礎 I B-2						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	N2レベルの語彙の意味理解、用法を身に付け、実生活の中で運用できるようになる。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					N2レベルの語彙を習得することができる	
		○				習得した語彙を適切な場面で運用できるようになる	
				○		授業に意欲的に参加する	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター 語彙N2』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第2部 1章 意味がたくさんある言葉： 1課 動詞①					
	2	第2部 1章 意味がたくさんある言葉： 2課 動詞②					
	3	第2部 1章 意味がたくさんある言葉： 3課 形容詞・名詞					第1章復習
	4	第2部 2章 意味が似ている言葉： 1課 副詞・形容詞					
	5	第2部 2章 意味が似ている言葉： 2課 名詞・動詞					第2章復習
	6	第2部 3章 形が似ている言葉					第3章復習
	7	授業内評価テスト①					
	8	第2部 4章 副詞：1課 程度、時間、頻度の副詞					
	9	第2部 4章 副詞：2課 後ろに決まった表現が来る副詞					
	10	第2部 4章 副詞：3課 まとめて覚えたい副詞・その他の副詞					第4章復習
	11	第2部 5章 オノマトペ					第5章復習
	12	第2部 6章 慣用表現： 1課 体の言葉を使った慣用表現①					
	13	第2部 6章 慣用表現： 2課 体の言葉を使った慣用表現② その他の慣用表現					第6章復習
	14	後期総復習					授業内評価テスト準備
	15	授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語基礎 I B-1						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	日本語能力試験N3レベルの語彙を話題別、性質別などのグループごとに学び、短い文や語句を効率よく覚えさせる。様々な語彙の練習問題を解き、語の形と意味と使い方を覚え、N3に合格できる知識を身につけることができる。						
授業形式	講義：○		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常生活に役立つ語彙を見て理解ができ、運用できる。	
	○					使用場面に合わせて適切な語彙を選び、日常的な会話ができる。	
		○				前後の文脈から空所に入る語を選ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター 語彙N3』(スリーエーネットワーク)2018						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第1部 15課 社会1:事件、事故					言葉の予習(1時間)
	2	第1部 16課 社会2:政治、経済					言葉の予習(1時間)
	3	第1部 17課 社会3:行事、宗教					言葉の予習(1時間)
	4	第1部 18課 自然1:季節と天気、地理					言葉の予習(1時間)
	5	第1部 19課 自然2:植物、動物など					言葉の予習(1時間)
	6	第1部 20課 数と量、21課 時間					授業内評価テストのための復習(2時間)
	7	授業内評価テスト①／第2部 1課 和語動詞					言葉の予習(1時間)
	8	第2部 2課 漢語動詞					言葉の予習(1時間)
	9	第2部 3課 形容詞					言葉の予習(1時間)
	10	第2部 4課 副詞					言葉の予習(1時間)
	11	第2部 5課 オノマトペ					言葉の予習(1時間)
	12	第2部 6課 間違えやすい漢語					言葉の予習(1時間)
	13	第2部 7課 言い換え類義					言葉の予習(1時間)
	14	第2部 8課 語形成					授業内評価テストのための復習(2時間)
	15	授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語応用 I B-3							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年							
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。							
授業形式	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。		
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。		
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図が理解できるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	『ドリル＆ドリル日本語能力試験N1聴解・読解』(ユニコム) 『新完全マスター読解N1』(スリーエーネットワーク)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	後期授業について、読解：文章のしくみを理解する 対比					授業の復習および次回の予習	
	2	聴解：課題理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 言い換え					授業の復習および次回の予習	
	3	聴解：ポイント理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 比喩					授業の復習および次回の予習	
	4	聴解：概要理解第3回、読解：文章のしくみを理解する 疑問提示文					授業の復習および次回の予習	
	5	聴解：即時応答第3回、読解：問を解く技術を身に付ける 指示語を問う					授業の復習および次回の予習	
	6	聴解：統合理解第3回①、読解：問を解く技術を身に付ける 誰が何を問う					授業の復習および次回の予習	
	7	聴解：統合理解第3回②、読解：問を解く技術を身に付ける 下線部の意味を問う					授業内評価テスト準備	
	8	授業内評価テスト①、後期前半まとめ					授業の復習および次回の予習	
	9	聴解：課題理解第4回、読解：問を解く技術をみにつける 理由を問う					授業の復習および次回の予習	
	10	聴解：ポイント理解第4回、読解：問を解く技術を身に付ける 例を問う					授業の復習および次回の予習	
	11	聴解：概要理解第4回、読解：全体をつかむ					授業の復習および次回の予習	
	12	聴解：即時理解第4回、読解：情報を探し出す 広告					授業の復習および次回の予習	
	13	聴解：統合理解第4回①、読解：情報を探し出す お知らせ					授業の復習および次回の予習	
	14	聴解：統合理解第4回②、読解：情報を探し出す 説明書き					授業内評価テスト準備	
	15	授業内評価テスト②、後期後半まとめ						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	授業内評価テスト	◎	◎				60%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。							

科目名	言語応用 I B-2						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	N2レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					N2レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。	
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。	
		○				文章を正しく読み取り、文脈や話の意図が理解できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ドリル&ドリル 日本語能力試験N2 [聴解・読解]』(ユニコム) 『新完全マスター読解 日本語能力試験N2』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴解:即時応答第3回 読解:対比				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	2	聴解:統合理解第3回 読解:言い換え				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	3	聴解:課題理解第4回 読解:比喻				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	4	聴解:ポイント理解第4回 読解:疑問提示文				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	5	聴解:概要理解第4回 読解:主張表現				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	6	聴解:即時応答第4回 読解:指示語を問う				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	7	授業内評価テスト①					
	8	聴解:統合理解第4回 読解:「だれが」「何が」「何を」を問う				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	9	聴解:課題理解第5回 読解:下線部の意味を問う				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	10	聴解:ポイント理解第5回 読解:理由を問う				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	11	聴解:概要理解第5回 読解:例を問う				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	12	聴解:即時応答第5回 読解:全体をつかむ				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	13	聴解:統合理解第5回 読解:情報を探し出す 1) 広告				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	14	聴解:模擬試験問題 読解:情報を探し出す 2) お知らせ				新出語彙等は必ず家で復習をすること	
	15	授業内評価テスト②					
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語応用 I B-1							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年							
授業概要	日本語の音声の特徴に慣れ、全般的な聴解能力を伸ばすとともに、日本語で書かれた文章をN3レベルの文法、語彙を確認しながら読むことで読解力を伸ばし、日本語能力試験N3に合格できるレベルの聴解、読解スキルとストラテジーを身につける。							
授業形式	講義：○		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					日常生活に役立つ、簡単な聞き取りや説明を聞いて、内容が説明できる。		
		○				旅行のガイドブックや、進学・就職の情報誌を読んで、必要な情報がとれる。		
		○				比較的平易な内容の評論、解説、エッセイなどの文を読んで、適当な答えが選択できる。		
テキスト・教材 参考図書	・『ドリル＆ドリル日本語能力試験N3聴解・読解』 UNICOM Inc. ・『新完全マスター 読解 日本語能力試験N2』 スリーエーネットワーク							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	聴解：即時応答第3回／読解：第1部1－1 [対比]ほかのものと比べる					言葉、表現の復習(1時間)	
	2	聴解：課題理解第4回／読解：第1部1－2 [言い換え]ほかの言葉で言い換える					言葉、表現の復習(1時間)	
	3	聴解：ポイント理解第4回／読解：第1部1－3 [比喩]ほかのものにたとえる					言葉、表現の復習(1時間)	
	4	聴解：概要理解第6,7回／読解：第1部1－4 [疑問提示文]疑問文を使って話題を提示する					言葉、表現の復習(1時間)	
	5	聴解：発話表現第3回／読解：第1部1－5 [主張表現]自分の意見であることを示す					言葉、表現の復習(1時間)	
	6	聴解：即時応答第4回／読解：第1部2－1 指示語を問う					言葉、表現の復習(1時間)	
	7	聴解：：課題理解第5回／読解：第1部2－2 「だれが」「何が」「何を」などを問う					授業内評価テストのための復習(2時間)	
	8	授業内評価テスト①					言葉、表現の復習(1時間)	
	9	聴解：ポイント理解第5回／読解：第1部2－3 下線部の意味を問う					言葉、表現の復習(1時間)	
	10	聴解：概要理解第8,9回／読解：第1部2－4 理由を問う					言葉、表現の復習(1時間)	
	11	聴解：即時応答第5回／読解：第1部2－5 例を問う					言葉、表現の復習(1時間)	
	12	聴解：概要理解第10回／読解：第2部1 全体をつかむ					言葉、表現の復習(1時間)	
	13	N2聴解問題実施、解説／読解：第2部2-1 情報を探し出す 1) 広告					言葉、表現の復習(1時間)	
	14	N2聴解問題実施、解説／第2部2-1 情報を探し出す 2) お知らせ					授業内評価テストの復習(2時間)	
	15	授業内評価テスト②						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	授業内評価テスト	◎	◎				60%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。							

科目名	通訳 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	場面に応じたアウトプットができることを目標とし、具体的には以下の2点を目的として学習する 1)就職活動に備え、履歴書、エントリーシートが作成できる 2)就職面接時に自分のことを日本語で話せる						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					テーマごとに必要な語彙・表現を習得し、既習の言語と言い換えができる	
		○				適切な語彙・表現を使って読み手にわかりやすい文章を書くことができる	
		○				適切な語彙・表現を使って聞き手にわかりやすく口頭で説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	講師作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	日本語を学ぶ理由 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	2	日本語を学ぶ理由 作文・発表②				次回のテーマについて情報を集める・考える	
	3	将来の計画 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	4	将来の計画 作文・発表②				次回のテーマについて情報を集める・考える	
	5	働くということ 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	6	働くということ 作文・発表②				次回のテーマについて情報を集める・考える	
	7	アルバイトについて 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	8	アルバイトについて 作文・発表②				次回のテーマについて情報を集める・考える	
	9	麻生でがんばったこと 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	10	麻生でがんばったこと 作文・発表②				次回のテーマについて情報を集める・考える	
	11	自己PR 作文・発表①				作文未完成の場合は次回までに完成させる	
	12	自己PR 作文・発表②				交流会に向けての練習	
	13	学科交流会 自己PR（会話・プレゼン・質疑応答）＊評価有り					
	14	まとめ					
	15	授業内評価テスト					
評価方法	(1)前回の復習テストを毎回実施する。(筆記または口述) (2)授業内評価テスト(作文・発表)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	ビジネスコミュニケーション I B							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年							
授業概要	社内外で遭遇するビジネスの場面において、日本語でスムーズに業務を行うために必要な基本的なこと(敬語表現、ビジネスマナーなど)を身に付ける							
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					日本でのビジネスに必要な語彙、表現を覚え、使用できる		
		○				相手から発された会話が理解でき、適切な応答ができる		
		○				適切な語彙、マナーや日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる		
		○				授業中に学習した項目を使用し、自分で例文を作ることができる		
テキスト・教材 参考図書	『日本語で働く！ ビジネス日本語30時間』(スリーエーネットワーク)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	第5課「頼む・断る」 上司に依頼する						
	2	第5課「頼む・断る」 上司の依頼を断る					スキット発表の準備	
	3	第5課「頼む・断る」 スキット発表					第5課の復習 第6課の「ことば」を調べる	
	4	第5課 ミニクイズ／第6課「許可をもらう」新出語彙の意味確認・導入						
	5	第6課「許可をもらう」 上司に許可をもらう						
	6	第6課「許可をもらう」 他社の人に許可をもらう					スキット発表の準備	
	7	第6課「許可をもらう」 スキット発表					第6課の復習 第7課の「ことば」を調べる	
	8	第6課 ミニクイズ／第7課「アポイントをとる」新出語彙の意味確認・導入						
	9	第7課「アポイントをとる」 紹介してもらった人にアポイントをとる						
	10	第7課「アポイントをとる」 上司の都合を聞く・約束を変更する					スキット発表の準備	
	11	第7課「アポイントをとる」 スキット発表					第7課の復習 第8課の「ことば」を調べる	
	12	第7課 ミニクイズ／第8課「訪問する」新出語彙の意味確認・導入						
	13	第8課「訪問する」 受付で取り次ぎを頼む						
	14	第8課「訪問する」 応接室で面会する～辞去する					スキット発表の準備	
	15	第8課「訪問する」 スキット発表 後期のまとめ					第8課の復習	
評価方法	(1)毎課、最終日にはペアまたはグループでスキットを実施する (2)宿題を数回課す (3)各課毎の小テストを実施する(4)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	◎				40%	
	授業内評価テスト	◎	◎				20%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。							

科目名	日本語能力試験対策B-3						
科目名(英)							
単位数	6単位		時間数	90時間	担当者		
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	日常的な場面だけではなく、幅広い場面、話題について書かれた新聞の論説、評論など難易度の高い文章が理解できるようになる。多くの練習問題をこなすことによって、解き方のスキルを身につけ、JLPTN1合格を目指す。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常的な語彙だけではなく、社会、経済・産業、身体・健康など幅広い分野で使われる語彙の意味が説明できる。	
		○				事柄を説明したり、主観を述べたりする場合の表現を学習し、適切な文法形式が判断できる。	
		○				説明文、指示文、評論やエッセイなどを読んで因果関係や理由、話の流れなどを理解し、内容について答えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	・『日本語能力試験20日で合格N1文字・語彙・文法 改訂版』国書刊行会 2012年 ・『日本語能力試験N1読解必修パターン』Jリサーチ出版 2015年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	N1文字・語彙文法第13日/読解2章長文A2「論説」				「20日で合格N2」第14日予習	
	4-6	N1文字・語彙文法第14日/読解2章長文B1「エッセイ」				「20日で合格N2」第15日予習	
	7-9	N1文字・語彙文法第15日/読解2章長文B2「小説」				「20日で合格N2」第16日予習	
	10-12	N1文字・語彙文法第16日/読解2章長文B3「紀行文」				「20日で合格N2」第17日予習	
	13-15	N1文字・語彙文法第17日/読解PART21章1—5・PART3模擬試験・解説				「20日で合格N2」第18日予習	
	16-18	N1文字・語彙文法第18日 /読解2章1「内容理解(短文)」				「20日で合格N2」第19日予習／授業内評価テストのための復習(1時間)	
	19-21	N1文字・語彙文法第19日/授業内評価テスト				「20日で合格N2」第20日予習	
	22-24	N1文字・語彙文法第20日/読解2章4「統合理解」				言葉、表現の復習(1時間)	
	25-27	N1模擬試験(聴解)・解説/読解2章3読解「内容理解(長文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	28-30	N1模擬試験(文字語彙文法読解)・解説/読解2章2「内容理解(中文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	31-33	N1模擬試験(文字語彙文法読解)・解説/読解2章6「情報検索」				言葉、表現の復習(1時間)	
	34-36	N1模擬試験(文字語彙文法読解・聴解)・解説				言葉、表現の復習(1時間)	
	37-39	N1文字・語彙文法第13日～15日復習/読解2章5「主張理解(長文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	40-42	N1文字・語彙文法第16日～18日復習/読解復習				言葉、表現の復習(1時間)	
	43-45	N1文字・語彙文法第19日～20日復習/読解復習				定期試験のための復習(2時間)	
評価方法	(1)小テストを数回実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	日本語能力試験対策B-2						
科目名(英)							
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	日常的な場面だけではなく、より幅広い場面(新聞記事・平易な評論など)での日本語の表現が理解できるようになる。 多くの練習問題をこなすことによって、解き方のスキルを身につけ、JLPTN2合格を目指す。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会・自然科学、環境、産業技術、医療健康、教育、文化芸術、歴史などで使われる語彙の意味が説明できる。	
		○				事柄を説明したり、主観を述べたりする場合の表現を学習し、適切な文法形式が判断できる。	
		○				説明文、指示文、評論やエッセイなどを読んで因果関係や理由、話の流れなどを理解し、内容について答えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	『日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年／国書刊行会) 『日本語能力試験問題集N2読解必修パターン』(2017年／Jリサーチ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	N1文字・語彙文法第13日/読解2章長文A2「論説」				「20日で合格N2」第14日予習(1時間)	
	4-6	N1文字・語彙文法第14日/読解2章長文B1「エッセイ」				「20日で合格N2」第15日予習(1時間)	
	7-9	N1文字・語彙文法第15日/読解2章長文B2「小説」				「20日で合格N2」第16日予習(1時間)	
	10-12	N1文字・語彙文法第16日/読解2章長文B3「紀行文」				「20日で合格N2」第17日予習(1時間)	
	13-15	N1文字・語彙文法第17日/読解PART2 1章1ー5				「20日で合格N2」第18日予習(1時間)	
	16-18	N1文字・語彙文法第18日/PART3模擬試験・解説				「20日で合格N2」第19日予習(1時間)	
	19-21	N1文字・語彙文法第19日/読解2章1「内容理解(短文)」				「20日で合格N2」第20日予習(1時間)／授業内評価テストのための復習(1時間)	
	22-24	N1文字・語彙文法第20日/授業内評価テスト				言葉、表現の復習(1時間)	
	25-27	N2模擬試実施、解説/読解2章2「内容理解(中文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	28-30	N2模擬試実施、解説/読解2章6「情報検索」				言葉、表現の復習(1時間)	
	31-33	復習小テスト／言語知識「第17日」/読解2章4「統合理解」				言葉、表現の復習(1時間)	
	34-36	N2模擬試験(文字語彙文法読解・聴解)・解説				言葉、表現の復習(1時間)	
	37-39	N2文字・語彙文法第13日～15日復習/読解2章3読解「内容理解(長文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	40-42	N2文字・語彙文法第16日～18日復習/読解2章5「主張理解(長文)」				言葉、表現の復習(1時間)	
	43-45	N2文字・語彙文法第19日～20日復習/読解復習				定期試験のための復習(2時間)	
評価方法	(1)小テストを数回実施する(2)宿題を数回課す(3)授業内評価テストを実施する(4)定期試験(筆記)を実施する(5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	日本語能力試験対策B-1				
科目名(英)					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年				
授業概要	日本語能力試験N3レベルの復習を行いながら、日本語能力試験N2の合格を目標とした対策授業を行う。日常的な場面で使われる日本語を理解し、運用力を身に付けることを目的とする。				
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
		○			
テキスト・教材 参考図書	『日本語能力試験問題集N3読解スピードマスター』(Jリサーチ 2010年) 『日本語能力試験20日で合格 N3文字・語彙・文法』(国書刊行会 2018年) 『日本語能力試験20日で合格 N2文字・語彙・文法』(国書刊行会 2018年)				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	授業概要説明／文字語彙N3 第14日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	2	読解 長文(5)～(6)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	3	文法N3 第14日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	4	文字語彙N3 第15日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	5	読解 情報検索(7)～(9)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	6	文法N3 第15日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	7	文字語彙N2 第1日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	8	読解 短文(16)～(20)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	9	文法N2 第1日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	10	文字語彙N2 第2日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	11	読解 中文(10)～(12)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	12	文法N2 第2日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	13	模擬試験①			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	14	模擬試験①			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	15	模擬試験① 解答解説			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	16	文字語彙N2 第3日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	17	読解 長文(7)～(8)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	18	文法N2 第3日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	19	文字語彙N2 第4日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	20	読解 情報検索(10)～(12)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	21	文法N2 第4日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	22	文字語彙N2 第5日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	23	授業内評価テスト			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	24	文法N2 第5日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	25	文字語彙N2 第6日			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)
	26	読解 中文(13)～(16)			わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)

	27	文法N2 第6日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	28	文字語彙N2 第7日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	29	読解 長文(9)～(10)	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	30	文法N2 第7日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	31	模擬試験②	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	32	模擬試験②	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	33	模擬試験② 解答解説	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	34	文字語彙N2 第8日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	35	読解 情報検索(13)～(15)	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	36	文法N2 第8日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	37	文字語彙N2 第9日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	38	読解 長文(11)～(12)	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	39	文法N2 第9日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	40	文字語彙N2 第10日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	41	読解 模擬試験問題	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	42	文法N2 第10日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	43	文字語彙N2 第11日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	44	文法N2 第11日	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
	45	後期総復習	わからない語彙等はノートにまとめ、必ず家で復習をすること(1時間)				
評価方法	(1)小テストを数回実施する(2)宿題を数回課す(3)授業内評価テストを実施する(4)定期試験(筆記)を実施する(5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	実践ビジネスコミュニケーションB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	PJC実践日本語コミュニケーション検定Bレベル取得とビジネスの現場でのコミュニケーション技能の習得を目的とし、日本のビジネスマナー、状況や場面に応じた適切な対応・判断・言葉遣い、正しい敬語表現について学習する。						
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					PJC合格に必要な語彙を理解、認識できる	
		○				PJC合格に必要な文法や会話表現を理解し、実践的な会話で使うことができる	
		○				日本企業で働く際に必要なマナー。対応、適切な言葉遣いが理解でき、実践できる	
テキスト・教材 参考図書	『マンガで体験！ 日本のカイシャ』（2017 日本漢字能力検定協会）						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	授業概要説明／検定試験の説明／前期復習					
	2	電話に出る際のマナー Chapter II-15					電話対応の会話暗記
	3	来客者に会社への道順を説明する表現 Chapter II-16					道案内文を作成する(プリント配布)
	4	来客者と雑談する際の話題の選び方 Chapter II-17					取引先の人との雑談時の話題を考える(プリント配布)
	5	社外の人への報告・連絡・相談のやり方 Chapter II-18					予想外の事態への対応を考える(プリント配布)
	6	名刺の取り扱いと交換の際のマナー Chapter II-19					名刺交換時の会話暗記
	7	ビジネスメールの書き方(顔文字表現の使用について) Chapter II-20					ビジネスメール(プリント配布)
	8	電話で相手の社名と名前を正確に聞き取る Chapter II-21					電話対応の会話暗記
	9	資料を印刷する際のマナー Chapter II-22					周囲へどのような配慮ができるか考える(プリント配布)
	10	会議での発言の仕方 Chapter II-23					会話文作成(プリント配布)
	11	上司や先輩に質問をする際の表現 Chapter II-24					質問する表現の練習(プリント配布)
	12	社内での人との接し方と言葉遣い Chapter II-25					会話文作成(プリント配布)
	13	仕事の引き受け方と断り方 Chapter II-26					会話文作成(プリント配布)
	14	依頼された事柄の意味や背景を考える Chapter II-27					依頼の確認に用いる表現を暗記
	15	まとめ・定期試験準備					
評価方法	(1)前回の復習テストを毎回実施する。(筆記または口述) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	比較文化論B									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	寺崎 葉子			
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	国際ビジネス科1年									
授業概要	日本についての基本的な知識や身近な情報を学び、自国との違いについて認識し、場面に応じ、日本の社会に適した行動様式を選択できるようになる。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					日本の社会や文化について理解し、自国と比較しながら説明できる。				
		○				各回の授業テーマについて自分の意見を述べることができる。				
テキスト・教材 参考図書	講師作成プリント使用、(参考図書)『クローズアップ日本事情15 日本語で学ぶ社会と文化』(The Japan Times)他									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	スポーツの楽しみ方 相撲								
	2	スポーツの楽しみ方 野球								
	3	日本の科学技術								
	4	日本の科学技術								
	5	日本の科学技術								
	6	環境問題								
	7	環境問題					授業内評価テストまでの学習内容を見直しておくこと			
	8	環境問題・授業内評価テスト								
	9	少子高齢社会								
	10	少子高齢社会								
	11	少子高齢社会								
	12	日本の学校								
	13	日本の産業構造								
	14	日本の産業構造								
	15	日本の産業構造・まとめ・定期試験準備					これまでの学習内容の見直しをしておくこと			
評価方法	(1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				40%			
	授業内評価テスト	◎	◎				20%			
	小テスト				◎		20%			
	受講状況	◎	○		○		20%			
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。									

科目名	企業実務B						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	寺崎 葉子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	日本におけるビジネスマナーの基礎である挨拶、身だしなみ、言葉遣いを理解するとともに、会社における基本的なマナー、慣習を実践できるよう講義を中心に演習も交えて授業を行う。また、就職活動に関する日本の慣習、マナーについても学習していく。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会人として必要なマナー関連語彙を理解し、自分の言葉で説明できる。	
	○					日本の会社の慣習、企業文化、就職活動について語彙を理解し、自分の言葉で説明できる。	
		○				日本の会社の慣習、企業文化、就職活動に沿った言動を選択、実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	担当教員作成教材使用 【参考図書】『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』（日本能率協会マネジメントセンター2020年）						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	講座概要説明・携帯電話のマナー					
	2	整理整頓					
	3	社会人としてはいけないこと					
	4	社会人としてはいけないこと					
	5	ビジネスEメール					
	6	ビジネスEメール					
	7	接客・訪問					
	8	接客・訪問					
	9	授業内評価テスト・接客・訪問					
	10	就職活動に関するマナー（訪問時の注意）					
	11	就職活動に関するマナー（お茶のいただき方）					
	12	就職活動に関するマナー（ハガキ・封筒の書き方）					
	13	就職活動に関するマナー（言葉）					
	14	就職試験面接について					これまでの授業内容の復習
15	まとめ・定期試験準備						
評価方法	(1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト				◎		20%
受講状況	◎	○		○		20%	
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	IT基礎B						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	世界中多くの企業で使用されるOffice製品。この授業では、卒業後の日本での就労を想定して、日本版のOffice(主にExcel)を使用し、操作方法や実務に合わせた基礎演習を中心に授業を行う。 また、日本語入力の基礎を固めるため、毎日パソコン入力コンクール(秋大会)を目指し、ローマ字入力や日本語タイピングの演習を行う。						
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					日本語入力に必要なローマ字を覚えて使うことができる。	
			○			ローマ字入力を用いてタイピング操作ができる。	
		○				Excelの基本操作を身につけて、関数を活用し表やグラフ作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	『留学生のためのITテキスト』森 由紀、平井 智子(著)、久保田 学 監(2019 日経BP) P検タイピング練習 インターネット版(ソーシャル投稿非対応 学校内利用推奨) https://www.pken.com/tool/typing.html						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-2	Excelの基本操作、タイピング練習					
	3-4	Excelの基本操作、タイピング練習					ローマ字入力の練習をしておくこと
	5-6	計算式と関数、タイピング練習					Excel基本操作を復習しておくこと
	7-8	計算式と関数、タイピング練習					Excel基本操作を復習しておくこと
	9-10	計算式と関数、タイピング練習					Excel基本操作を復習しておくこと
	11-12	計算式と関数、タイピング練習					Excel基本操作を復習しておくこと
	13-14	グラフ作成と関数活用、タイピング練習					関数の復習をしておくこと
	15-16	グラフ作成と関数活用、タイピング練習					関数の復習をしておくこと
	17-18	グラフ作成と関数活用、タイピング練習					関数の復習をしておくこと
	19-20	グラフ作成と関数活用、タイピング練習					関数の復習をしておくこと
	21-22	総合演習、タイピング練習					タイピングの練習をしておくこと
	23-24	総合演習、タイピング練習					タイピングの練習をしておくこと
	25-26	総合演習、タイピング練習					タイピングの練習をしておくこと
	27-28	総合演習、タイピング練習					タイピングの練習をしておくこと
	29-30	授業内評価テスト					これまでの内容を復習しておくこと
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)授業の中で課題を作成する。(3)出席状況、授業態度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	◎				50%
	授業内評価テスト	○	◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。この科目は再試験は実施しない。						

科目名	産業研究						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	寺崎 葉子・徳永 明希子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	就職活動をするにあたって、日本の産業について学び、進路に関する目標設定をする						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					就職活動・産業に関する語彙を学び、自分の言葉で説明できるようになる。	
		○				企業情報に関する語彙を学び、自分の言葉で説明できるようになる。	
		○				自分の適性と合う産業を考え、自分で調査することができる。	
				○		授業に積極的に参加し、課題にも真摯に取り組み、提出期限までに提出する。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成プリント・就職活動ガイドブック等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	後期にやるべきことを考える(就職活動に向けて)					
	2	後期の目標設定(就職を含めた)				個人の後期目標を考えておく。年間目標の進捗状況を確認しておく。	
	3	就職までのタイムスケジュールを立てる					
	4	日本の産業					
	5	日本の産業					
	6	日本の産業					
	7	日本の産業					
	8	就職活動について					
	9	就職活動について					
	10	産業ごとの適性・求められる人材について考える					
	11	産業ごとの適性・求められる人材について考える					
	12	産業ごとの適性・求められる人材について考える					
	13	面接練習					
	14	面接練習					
	15	面接練習・長期休暇における就職活動について					
評価方法	R評価とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	◎	◎				50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	この科目は再試験は実施しない。						

科目名	ビジネス英語 I						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	寺崎 葉子
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	国際ビジネス科1年						
授業概要	TOEIC受験のための対策を行う。また、解法のみならず、リスニング、リーディング問題を通してビジネスシーンで英語でのコミュニケーションができるよう必要な語彙、言い回しを習得する。						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					TOEICの出題レベルの語彙、表現を習得し、文意を理解できる。	
		○				制限時間の中で、習得した語彙、表現を駆使して正しく解答できる。	
		○				わからない語彙、表現でも、文意、場面から推測して場面の流れを理解できる	
テキスト・教材 参考図書	教員作成プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	TOEICの説明・TOEICの問題構成の理解				復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと	
	2	Part1対策	Part5対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	3	Part1対策	Part5対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	4	Part2対策	Part5対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	5	Part2対策	Part6対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	6	Part3対策	Part6対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	7	Part3対策	Part7対策		復習を必ず行い、特に新出語彙の意味の把握は確実にしておくこと		
	8	Part4対策	Part7対策		授業内評価テストの準備をしておくこと		
	9	授業内評価テスト					
	10	模擬問題練習				事前に問題を解いて参加すること	
	11	模擬問題練習				事前に問題を解いて参加すること	
	12	模擬問題練習				事前に問題を解いて参加すること	
	13	模擬問題練習				事前に問題を解いて参加すること	
	14	模擬問題練習				授業内評価テストの準備をしておくこと	
15	授業内評価テスト						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。						